

令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	63	50	37	5.3	6.9
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
理科	433
学校	433
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査結果

〈国語〉

全国平均と比較して4ポイント、大阪府では2ポイント下回った。特に、「言葉の特徴や使い方に関する事項」において、対府比で正答率が10ポイント程度の開きが見られた。一方で「読むこと」については、大阪府及び全国の平均を上回っていた、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考え、記述することができていた。また記述面においても、大阪府の平均を上回った。

〈数学〉

全国平均と比較して11.3ポイント、大阪府平均と比較して10ポイント下回った。特に、「データの活用」領域では、対府比で正答率が14ポイント程度の開きが見られた。また「図形」領域の証明の部分において、8ポイント程度下回っていたが、同じ「図形」領域の外角の大きさを求める問題では5ポイント程度上回った。

【今後に向けて】

〈国語〉

「言葉の使い方に関する事項」において、文脈に即して漢字を正しく書くことに課題が見られた。各学年の語彙の指導事項の内容と関連づけ、音訓読みを意識し、同音異義語などの意味の違いに注意するなどして、漢字を正しく使うことができるよう指導することが大切である。また、今後とも漢字の読み書きや、文法など基礎的・基本的事項の定着を推進する。また、表現力・言語力の育成を目指し、人の意見をしっかりと聞き、考えていく能力や自分の考えをまとめ、表現できる能力の育成を図るため、指導方法を工夫していく。

〈数学〉

全国学力・学習状況調査の振り返りプリントを活用して、復習をするとともに、基礎・基本の定着を図っていく。また、普段の授業から、基礎的な計算力の向上を図るとともに、表からデータを正確に読み取る活動や、証明をする活動に取り組み、自ら考え、表現する能力の育成を行っていく。

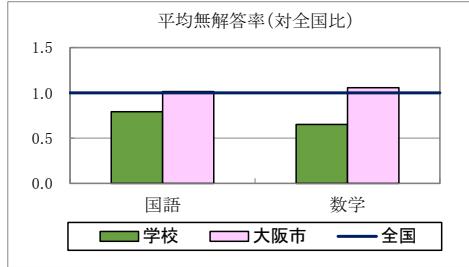
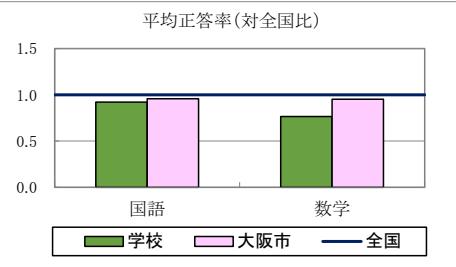
令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	50	37
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

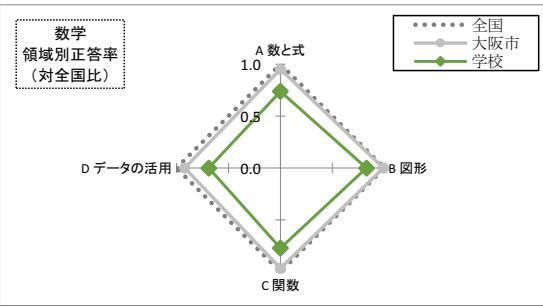
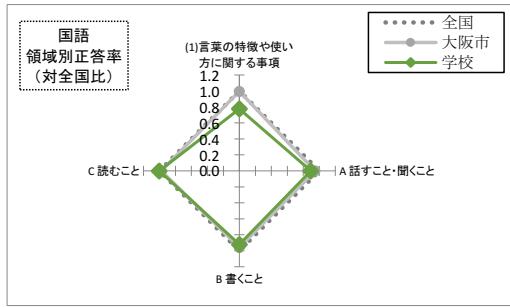
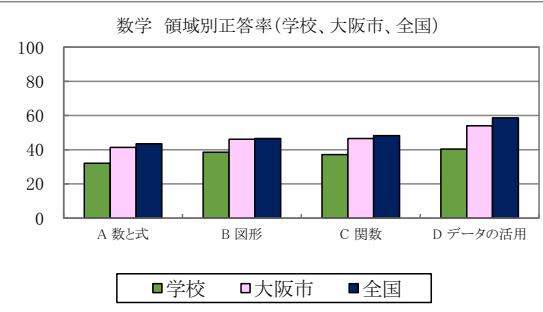
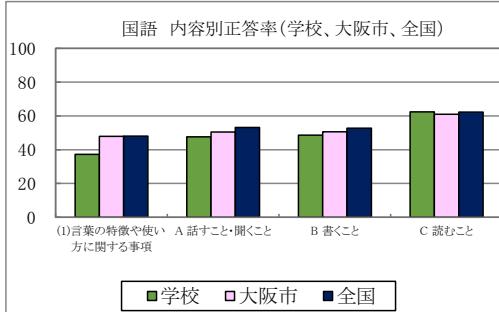
平均無解答率(%)	
国語	数学
5.3	6.9
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	37.3	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	47.6	50.4	53.2
B 書くこと	5	48.6	50.6	52.8
C 読むこと	3	62.4	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	32.1	41.4	43.5
B 図形	4	38.5	46.1	46.5
C 関数	3	37.2	46.6	48.2
D データの活用	3	40.4	54.0	58.6

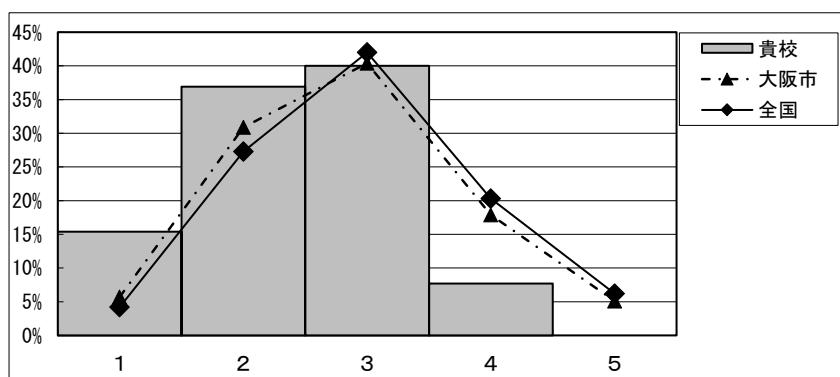
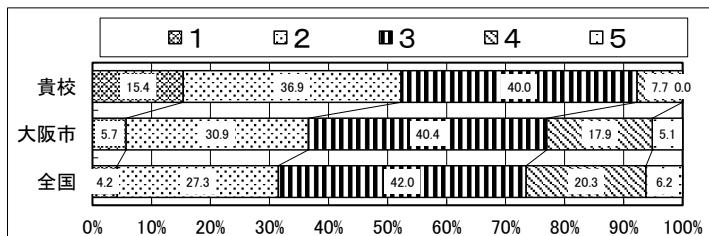


令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	433
大阪市	489
全国	503



令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

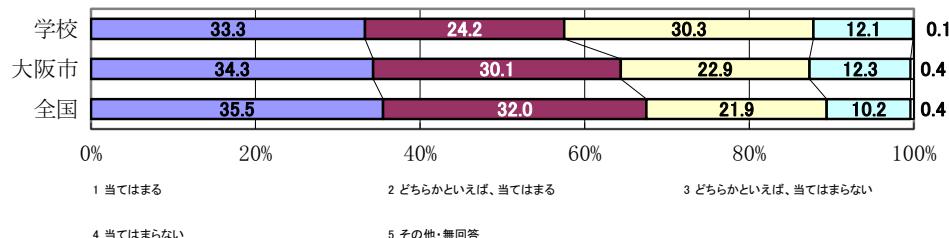
生徒質問より

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

質問番号
質問事項

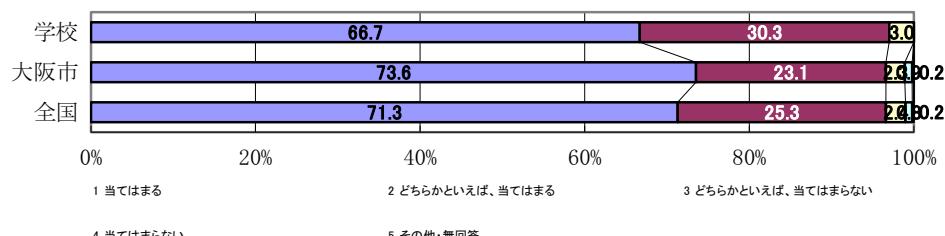
7

将来の夢や目標を持っていますか



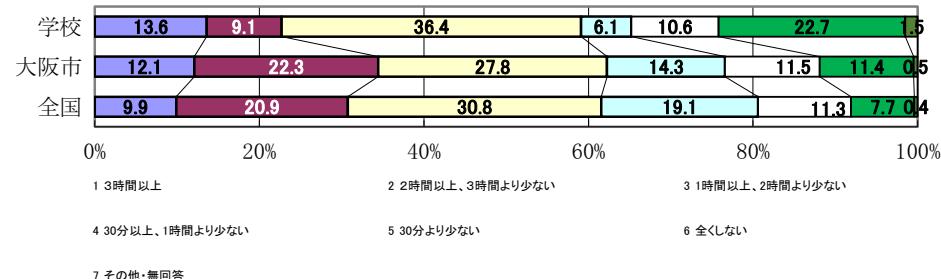
11

人の役に立つ人間になりたい
と思いますか



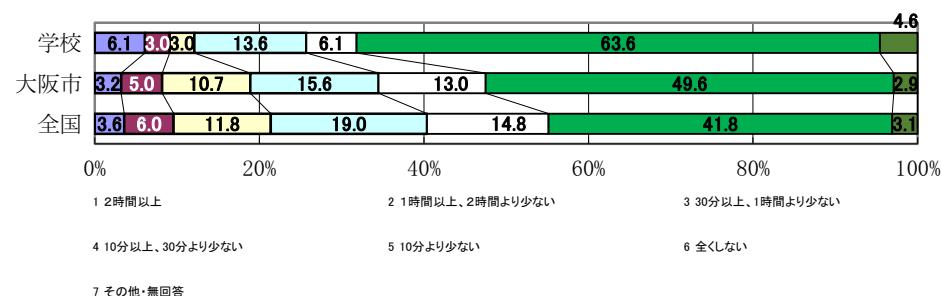
17

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)



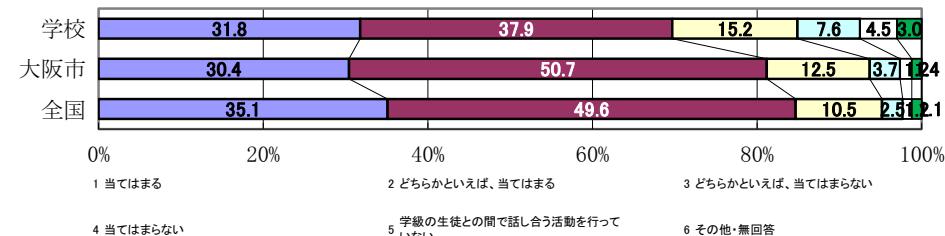
21

学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)



35

学級の生徒との間で話合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方方に気付いたりすることができますか



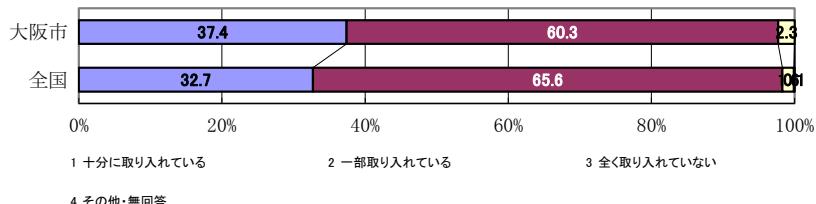
令和7年度 義務教育学校生野未来学園中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

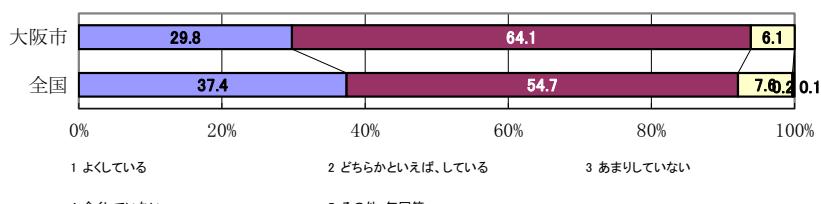
質問番号
質問事項
13
ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「一部取り入れている」を選択



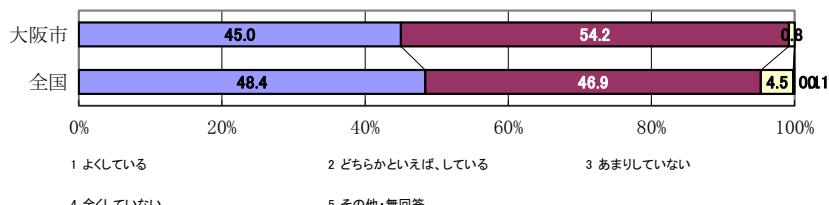
16
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択



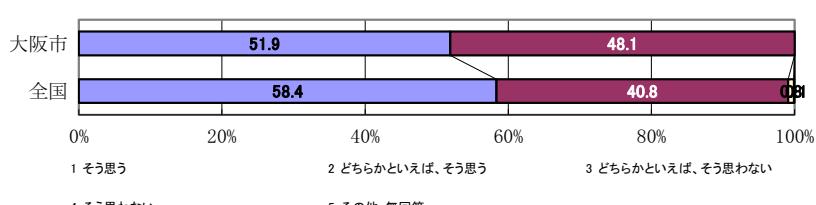
18
授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



21
学校運営上の課題への対応に当たっては、各教職員(支援スタッフを含む)の専門性を活かせるよう適切な役割分担や連携協働をしていますか

学校 「そう思う」を選択



59
調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか

学校 「ほぼ毎日」を選択

